伊勢物語（東下り）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

昔、男ありけり。その男、身を要なきものに思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。もとより友とする人、ひとりふたりして行きけり。道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋といひけるは、水行く川の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に下りゐて、乾飯食ひけり。その沢に、かきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠める。

から衣着つつなれにしつましあれば③はるばるきぬる旅をしぞ思ふ

と詠めりければ、④みな人、乾飯の上に涙落として、ほとびにけり。

問一　傍線部①「いひける」、②「詠める」の下には、それぞれ語句が省略されていると考えられる。その語句を次の**ア**～**コ**の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　人　　**イ**　時　　**ウ**　歌　　**エ**　旅　　**オ**　わけ　　**カ**　話

問二　「から衣」の歌に使われている表現技法（修辞法）を、次の**ア**～**コ**の中から五つ選び、記号で答えなさい。

ア　枕詞　　**イ**　序詞　　**ウ**　擬人法　　**エ**　見立て　　**オ**　縁語
カ　掛詞　　**キ**　比喩　　**ク**　倒置法　　**ケ**　折句　　**コ**　本歌取り

問三　「から衣」の歌の「から衣着つつ」の部分と同じ働きをしている部分を、次の歌の中から抜き出しなさい。

駿河なる宇津の山べのうつつにも夢にも人にあはぬなりけり

問四　傍線部③「はるばるきぬる旅をしぞ思ふ」とあるが、旅をどのように思ったのか。次の**ア**～**カ**の中から適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア　つらい　　**イ**　退屈だ　　**ウ**　楽しい　　**エ**　つまらない　　**オ**　ばからしい　　**カ**　悲しい

問五　傍線部④「みな人」は、なぜ涙を流したのか。簡潔に説明しなさい。

問六　本文中から、係り結びの箇所を二つ探し出し、それぞれ係助詞と結びの語を答えなさい。

学年		組		番号		氏名		得点

問一	問二	問三	問四	問五	問六
①					係助詞
②					結びの語
					係助詞
					結びの語

伊勢物語（東下り）　＊

〔出題の意図と留意点〕　歌物語の特徴の理解、内容読解、文法事項などの基礎的な力を問う。

☆解答例と配点

問一　①　**オ**　②　**ウ**　〈４点×２〉
問二　**ア・イ・オ・カ・ケ**　〈２点×５〉
問三　駿河なる宇津の山べの　〈８点〉
問四　**ア・カ**　〈４点×２〉
問五　男と同様、都に残してきた妻や恋人を懐かしく思い出したから。　〈６点〉
問六　なむ・ける／ぞ・思ふ　〈５点×２〉

計50点

伊勢物語（東下り）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

A　昔、男ありけり。その男、身を要なきものに思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国求めに①とて行きけり。もとより友とする人、ひとりふたりして行きけり。道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。三河の国八橋といふ所に至りぬ。そこを八橋といひけるは、水行く川の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋と言ひける。その沢のほとりの木の陰に下りゐて、乾飯食ひけり。その沢に、かきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」と言ひければ、詠める。

②から衣着つつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ

と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落として、ほとびにけり。

B　行き行きて、駿河の国に至りぬ。宇津の山に至りて、わが入らむとする道は、いと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふに、修行者会ひたり。「かかる道は、いかでかいまする。」と言ふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

駿河なる宇津の山べのうつつにも③夢にも人にあはぬなりけり

富士の山を見れば、五月のつごもりに、雪いと白う降れり。

④時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ

その山は、ここにたとへば、比叡の山を二十ばかり重ね上げたらむほどして、なりは塩尻のやうになむありける。

C　なほ行き行きて、武蔵の国と下総の国との中に、いと大きなる川あり。それをすみだ川といふ。その川のほとりに群れゐて、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかな、とわび合へるに、渡し守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さる折しも、白き鳥の、嘴と脚と赤き、鴫の大きさなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

と詠めりければ、⑤舟こぞりて泣きにけり。

（A・B・Cは右の文章全体を三つに分けた場合の段落を示す。）

問一　傍線部①「とて」の受けている部分はどこか。全体を抜き出しなさい。

問二　傍線部②「から衣」の歌について、次の各問いに答えなさい。

(1)　「から衣」の歌には、種々の修辞法が用いられているが、本文中で詠歌の条件として提示されている修辞法を何と言うか、答えなさい。

(2)　(1)で答えた修辞法が用いられている歌は、次のア～エのうちではどれか。記号で答えなさい。

ア　会ふからももものはなほこそ悲しけれ別れむことをかねて思へば

イ　今幾日春し無ければうぐひすもものはなかめて思ふべらなり

ウ　をぐら山みねたちならし鳴く鹿の経にけむ秋を知る人ぞなき

エ　秋近う野はなりにけり白露の置ける草葉も色変はりゆく

(3)　(2)で答えた歌について、その修辞法（(1)の解答であるもの）を具体的に説明しなさい。

問三　傍線部③で、「夢で人に会わない」とは、どのようなことを意味するのか。説明しなさい。

問四　傍線部④の歌を現代語訳しなさい。

問五　A段、B段で、旅を行く心細さがよく表れているところはどこか。それぞれの歌を除外した部分から二十字以内で、一か所ずつ抜き出しなさい。

問六　C段の波線部の助詞「の」について、(1)品詞の種類、(2)文法上の用法、(3)訳し方を答えなさい。

問七　傍線部⑤「舟こぞりて泣きにけり」とあるが、(1)なぜ「舟こぞりて」なのか。また、(2)どのような思いで泣いたのか、簡潔に答えなさい。

問七		問六	問五		問四	問三	問二		問一
(2)	(1)	(1)	B	A			(3)	(1)	
								(2)	
		(2)							
		(3)							

学年
組
番号
氏名
得点

伊勢物語（東下り）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　和歌の修辞法の折句の理解、登場人物の心情、当時の民俗等の文学的背景、文法事項など、広い古典の力を問う。

☆解答例と配点

問一　京にはあらじ、東の方に住むべき国求めに〈５点〉

問二　(1)　折句　(2)　**ウ**
(3)　五七五七七の各句の先頭に、「をみなへし（女郎花）」の五文字が詠み込まれている　〈３点×３〉

問三　相手（恋人）の姿が自分の夢に現れないということは、相手が自分を思ってくれていないということになる。〈６点〉

問四　時節を知らない山は富士の山だ。いったい今をいつと思って、あんなに鹿の子まだらに雪が降り積もっているのだろう。〈６点〉

問五　**A**　道知れる人もなくて、惑ひ行きけり　**B**　もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふ　〈４点×２〉

問六　(1)　格助詞　(2)　同格　(3)　…で　〈２点×３〉

問七　(1)　一行はみな、京に思う人を残しているという、男と同じ境遇であったから。
(2)　都からはるばるやってきた道程を思い、都に残してきた恋人たちの身の上を思いやり、恋い慕う気持ち。〈５点×２〉

計50点